

奈の良

Na no Ra

良県東部の秘宝：もう一步のぼして

第八号 宇陀市

- ハイキングwith奈の良：鳥見山
- 室生寺・大野寺巡り
- 楽しく「いのちの大切さ」が学べる うだ・アニマルパーク
- 知られざる宇陀の魅力：宇陀に移住したフランス人にインタビュー

ハイキング with 奈の良： 宇陀市鳥見山

60分～90分程度

で完登ができる

初心者でも楽しめる

ハイキングコース

今回は、宇陀市にある榛原駅から鳥見山公園までのハイキングルートを紹介します。景色はもちろん、近鉄大和八木駅から急行電車で15分とアクセスも非常に良い宇陀市には、初心者でも楽しめるハイキングコースがたくさんあります。

なお、榛原駅近くの観光案内所ではチラシや地図など様々な資料が用意されていますので、出発前に参考にすると便利でしょう。

紅葉、つつじなどのきれいな花だけでなく、出発点から頂上まで歴史的な遺跡も多く残っており、歴史好きな方にもぴったりのコースです。それでは、行きましょう！

・榛原駅から出発し、まずは旧伊勢街道を歩いていきます。江戸時代から伊勢参りがブームになり、宇陀でも旅人を対象にした旅館が盛んに営業されていました。その例の一つとして、榛原駅から徒歩10分の「あぶらや」があります。木造の格子が街道に面し、200年前の雰囲気そのまま伝わってきます。

また、中には創業時からの資料が多く展示されています。丁寧に保存されている旅籠の様子が江戸時代にタイムスリップしたかのような感じを与えてくれます。





・徐々に北に進み、道が少しずつ険しくなってきます。のどかな田んぼの景色が目の前に広がり、様々な種類の花を見かけます。宇陀市商工観光課によると、鳥見山は一年中いつ行っても景色が楽しめるエリアで、道端に生えている野生のユリやつつじなどの花もまた一つの見所です。特につつじの本数の多さと美しさは有名で、毎年5月にはつつじまつりも行われます。自然が大変きれいな場所です。

・山頂に近付き、鳥見山公園に到着します。木に囲まれた美しい池に静かな神社があり、落ち着いたひとときを過ごすことができます。さらに、神武天皇聖跡伝承地の顕彰碑や様々な歌碑等、鳥見山の歴史の深さを今でも感じることができます。

・階段を上り、ようやく山頂に到着です。宇陀、そして大和盆地全体を見渡せる絶景スポットで、着いたときの達成感は言葉になりません！ここからの秋の紅葉の景色は特におすすめです。もっとチャレンジしたい人は頂上からさらに桜井市の長谷寺や山部赤人墓まで続くハイキングコースに挑戦できます。

鳥見山のハイキングコースは60分～90分程度で完登ができ、初心者でも楽しめます。宇陀市にお越しの際には挑戦してみたいかがでしょうか。

豆知識：

鳥見山は日本書紀で神武天皇が祭祀を祀った霊時（まつりのにわ）として登場し、地名の由来はここまで遡ります。歴史の深さを感じますね！

室生寺・大野寺巡り

(一) ほっとしますよ一室生寺

室生寺は770 - 780年の間に桓武天皇の病氣平癒のために、延寿法を祈願し創建された、1200年以上の歴史を持つ古寺です。また、唐から真言密教を日本に伝えた空海により真言宗の道場の一つともなっています。室生寺は中国との縁が非常に深いお寺です。



石柱



鎧坂 (飛鳥園提供)

朱塗りの太鼓橋を渡ると、山門前の石柱に「女人高野室生寺」という文字が見えます。同じ真言宗の高野山金剛峯寺が女人禁制だったのに対して、室生寺は女性にも開放されたことにより広く親しまれ、「女人高野」と呼ばれてきました。

仁王門を通ると、有名な鎧坂が見えます。5月上旬には鎧坂の両側に石楠花が美しく満開に咲きます。坂下から一段一段石段を登るうちに、お参りをする心の準備ができるような気がします。まさに千年古寺に相応しい参拝道と言えるでしょう。



伽藍配置図 (室生寺提供)



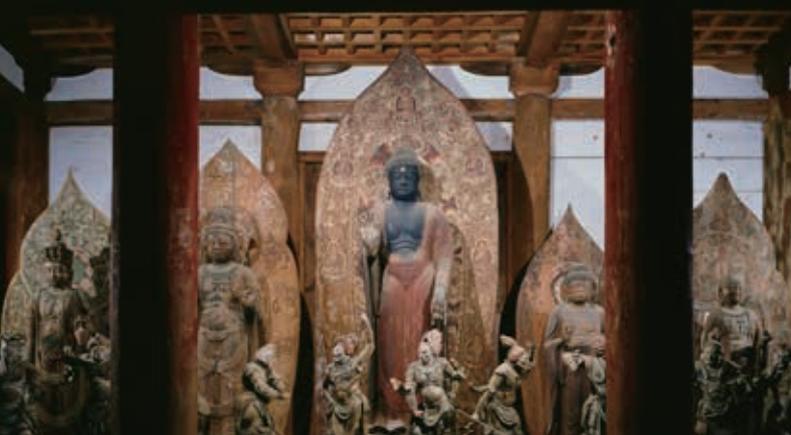
左1: 十一面観音立像 (国宝) 左2: 弥勒堂釈迦如来座像 (国宝)
(飛鳥園提供)

金堂は文字どおりの「ゴールド」ではありませんが、金堂内陣に置かれた五尊の一木造りの仏像は仏教美術の大成であり、ゴールドに負けない価値があります。特に十一面観音立像 (国宝) は「宝物中の宝物」といわれ、特別拝観の時しか間近で見ることができません (左写真1)。

これらの仏像は、1200年という悠久の時を越えて、生き生きとした顔と色彩が綺麗に保存されています。日本の木造彫り技術はその昔中国から伝えられたといわれますが、残念ながら、現在の中国には、千年の歴史を越え、損傷無く保存されている木造仏像は少数です。室生寺が山奥にあったため戦火から逃れられただけでなく、同寺が千年以上も伽藍 (寺院の建築群) の保護に尽力してきたからこそでしょう。私たちが今でも人類共有の文化財を拝見することができるのは、このような人々のお陰に他ありません。

金堂の西南方向には弥勒堂があります。一番印象深いのは白っぽい顔をされている釈迦如来座像 (左写真2) です。この座像は第二次世界大戦中に、ドイツの展示会に出展されたそうです。弥勒堂から五重塔に行く途中、本堂 (灌頂堂) が見えます。本堂から400mぐらい奥の院には御影堂があります。日本の木造屋根建築技術の高さは、金堂、灌頂堂、弥勒堂から見て取れます。

日本では「神仏混淆」といわれ、神仏が共存しています。室生寺のある室生山中には昔から竜神が住むといわれており、室生寺は仏教の寺院でありながら8世紀に竜穴神社が創建され、雨乞いの神として民衆から信仰されてきました。古くから、日本人が仏様、神様



向かって左から (飛鳥園提供):
十一面観音立像 (国宝)、文殊菩薩立像 (重文)、中尊釈迦如来立像 (国宝)、
薬師如来立像 (重文)、地藏菩薩立像 (重文)

(二) 磨崖仏との出逢い—大野寺



彌勒堂 (重文・飛鳥園提供)



室生寺総務 山岡さん
とのインタビュー



階段の下から見る五重塔



五重塔 (国宝)



大野寺彌勒磨崖仏

大野寺磨崖仏の由来

大野寺は室生寺の西大門にあります。宇陀川の傍の岩壁に直接彫られた彌勒如来立像があり、立像の高さは11.5mで日本最大の石仏です。大野寺の岡田住職によると、約800年前、後鳥羽上皇が、宋から興福寺に招いていた「伊行末集団」という中国人技師を大野寺に派遣して作ったそうです。彌勒如来仏像は約30年前に一度修復されました。800年も経った今、先人の作った作品を通じて、日中間の縁の深い交流と歴史の深さを感じることができて、本当に幸いです。

* 伊行末集団：鎌倉初期（中国の宋時代）に来日した彫師団体。

身代地藏尊

身代地藏尊は他人を救うために、自分の身を焼いたという言い伝えがあります。地元の人々は身代地藏尊を「無事高僧」の愛称で非常に尊敬し、今でも毎月24日には、地藏尊を祀る行事が行われています。



大野寺彌勒下生線刻大磨崖仏
(大野寺提供)

枝垂れ桜

300年の樹齢がある枝垂れ桜も大野寺の名物です。現在は病害のため枝を切って治療中ですが、数年後にまた、元の姿を見られるのが楽しみです。

背景写真：太鼓橋・鎧坂・
大野寺の枝垂れ桜



枝垂れ桜 (飛鳥園提供)

呉 春蘭

は自然の中に存在すると思え、自然に対して尊敬の念を抱いてきたことが分かります。

室生寺の五重塔は空海の一晩作りものだという伝説があり、日本で二番目に古い木造の五重塔です。高さ16.1mと、屋外にある五重塔としては、日本一小さなものです。五重塔は階段の下から見ると壮大に見えますが、近くで見ると、細長い姿をしていて、このような見え方の違いは非常に面白いです。皆さんも是非ご自身の目で確かめてみてください。

「今の日本には確かに大きな争いはないけれど、人の悩みは相変わらず存在しています。人々の心をどう救えるかは寺院の現代的な新しい使命であります。」そう話して下さった室生寺の山岡さんは「とにかく来てみて下さい。ほっとしますよ。」とおっしゃいました。特に目的はなくても、山奥の自然の美しさと仏教美術の美しさが調和されている室生寺に来てみてください。

室生川の水の音と時々聞こえる鳥の声を聞くと、中尊木像を見上げて、思わず手を合わせたくくなりますよ。このようなやすらぎの気持ちは、絶対に都市ではできない体験です。皆さんも一度、室生山の自然に抱かれて、昔の人の作品と心の対話をするのはいかがでしょうか？

室生寺には英語のパンフレットが用意されています。事前に電話かファックスで連絡をすれば、外国人観光客も楽しめるように、案内の用意等をしていただけるとのこと。

室生寺のHP <http://www.murouji.or.jp/>



遊びに
おいで!

楽しく
「いのちの大切さ」
が学べる

うだ・アニマルパーク

青い空の下に広がっている緑の芝生の上で悠悠自適に戯れているヤギたち。童話に出るような風景が目の前に広がっているのは「奈良県うだ・アニマルパーク」です。

いろんな体験や動物とのふれあいを通じて、いのちの大切さを伝えるために今のアニマルパークができたこと、うだ・アニマルパークの阪口様は話します。

バター作り



バター作りはスタッフの方の丁寧な説明により行われます。生クリームが入ったボトルを何回も振り、タンパク質と脂肪で構成されている脂肪球を分離させバターとバターミルクに分けます。最初は水の音がしますが、すぐにホイップ状態になり、音がしなくなります。そしてまた何かがボトルの中で動く音がし、どんどんバターができていきます。手の感覚や音の感覚を感じながら自分のバターが作れます。最後には玉のようなバターと淡い白色のバターミルクが出来上がります。クリーミーな味がするバターミルクもぜひ飲んでみてください。

出来たてのバターは用意されたクラッカーと一緒にその場で試食します。塩が入っていないので柔らかいバターの味がそのまま感じられます。ヘルシーでおいしいバターがこんな簡単に作れるので子ども連れの家族でも楽しく体験できます。



牛の乳しぼり体験

バター作りを申し込んだ方は牛の乳しぼり体験もできます。取材のときは乳牛のすももちゃんが体験を手伝ってくれました。乳牛の乳しぼり体験といえば、しぼりたての牛乳が飲めるイメージがあるかもしれませんが、ここでは自分でしぼった牛乳は飲みません。すももちゃんはもともと牛乳を生産する乳牛でしたが、子牛を産する見込みがなくなり牛乳を生産することができなくなったため、乳から出る牛乳も通常に比べ薄い色をしています。牛乳を生産する役目は終えましたが、うだ・アニマルパークで、私たちが普段飲んでいる牛乳がどこからきているのかを皆さんに教えてくれています。体験を通じて私たちは動物や自然からいただいたもので生きているということを改めて感じる事ができました。



ヤギの橋わたり

皆さん知っていましたか? ヤギって高いところをよく登るってことを。うだ・アニマルパークではその特性を活かし、1日4回ヤギの橋わたりを披露しています。ピョンピョンと橋を渡るヤギの姿に目が離せません。1分もたたないうちに皆渡ってしまいますので、集中してよく見てください。



ヤギ・羊の餌やり

ヤギ・羊舎の入り口でスタッフから餌をいただき、ヤギや羊にあげることができます。取材した日はかわいい子ヤギと子羊がいました! おいしく餌を食べているヤギと羊の顔を間近で見ることができますのでぜひ体験してみてください。



うだ・アニマルパークには上記の動物以外にもポニーやウサギなど、いろんな動物に会えます。最初は動物との触れ合いを楽しみに来た人たちも、いろんな体験をしていく中で私たちはいろんな命と共存して生きていることを自然と学びます。テーマパークのように気軽に訪れることができることは、直接動物と触れ合いながら「いのちの大切さ」を深く感じ、学べる「いのちの学校」でした。皆様も可愛い動物と一緒にいのちについて考える貴重な体験をしてみてください。



李錦善

うだ・アニマルパーク

<http://www.pref.nara.jp/1839.htm>



※体験は天候や時期によって内容が変わる場合がございます。申し込み方法や詳細内容については上記のホームページを必ずご確認ください。

知られざる宇陀の魅力

宇陀市はどのような地域でしょうか。外国人にフレンドリーな所でしょうか。知りたくなって、2011年から宇陀市に住んでいるフランス出身の Sylvain Chabrol 様に会いに行きました。

なぜ宇陀市に住むようになりましたか。

妻とはオーストラリアのハーブ農園で働いていた時に会いました。その後、フランスに移りましたが、田舎に住みたいという思いがあったので、自然が豊かな所を探し、偶然、宇陀市を見つけ、引越すことにしたのです。後悔はありません！私は、日本語が話せませんが、運よく、青葉仁会のハーブ・クラブで5年間パン職人として勤めさせていただくことが出来ました。

メリメロガレットを始めたきっかけは何ですか。

長野県の白馬村に旅行したとき、フランスの伝統料理であるガレットを食べ、日本でも人気があることに驚き、嬉しく思いました。元々シェフになりたいという夢があったので、私達もガレットなどのフランスの料理を日本で楽しんでもらいたいと思いました。今年の4月からは、仕事をやめて本格的に私達夫婦で「メリメロ」をやっています。現在は、毎月のイベントに参加して、ガレット等を販売しています(1)。また、2m×1m程度のスペースがあれば、出張販売も受け付けています。



宇陀市の紹介したい所はありますか。

もちろんです。「ふるさと元気村」は素敵です。元気村ではアート体験の他、村の人たちが料理をふるまう、「一日シェフ」等、色々なプロジェクトを行っています。宇陀市に住んでいる人々にとって、世代を超えたつながりやふれあいができます。コミュニティライフの大切な所です！

星降る谷の家 fufufu さんもおすすめです。川沿いにあるカフェで、テラスは心地よいです。ここでは色々なイベントが行われ、ここで予約すればメリメロガレットも食べられます！



メリメロのコンセプト・特徴は何ですか。

地域の人とのつながりや、おいしく、安全なガレット(2)などを作ることを大事にしています。地元のオーガニック農産物を使い、ビーガンやベジタリアンやアレルギーがある人など、誰でも安心して食べられるガレットを作っています。他にも、クレープは豆乳で作り、牛乳や卵アレルギーがある人も食べられます。

それに、一方でフランスの味を伝え、他方で日本の材料を使って、なんとなく日本とフランスのかけ橋になったのではないかと思います。言い過ぎでしょうか(笑)



最後に、何か伝えたいことはありますか。

日本に来てから、日本の村のコミュニティの良さに気づきました。食べ物を交換したり、相談し合ったりして、温かい環境です。メリメロをやっているからこそ、お客様、同業のカフェの経営者や、農家の方々など、多様な素晴らしい出会いに恵まれました。何よりもここにいるのがうれしいです。

メリメロのガレットに興味があれば、迷わず、下記のフェイスブックページを登録してください！

- (1) イベント：毎水曜日 ハラペコ里の市
第2土曜日 三重オーガニックマーケット
第3日曜日 滋賀県のオーガニックとつながるマーケット・しが

- (2) ガレットは元々フランスのブルターニュ地域の名物です。ガレットはそば粉を使った塩味のクレープです。

オストリー ジャンヌ

リンク先：
メリメロ <https://www.facebook.com/Meli-Melo-392981520801494/>
ふるさと元気村 <http://web1.kcn.jp/furusatogokenkimura/>
星降る谷の家 fufufu <https://www.facebook.com/fufufu222/>

「奈の良」とは

こんにちは。

私たちは奈良県国際課に勤務する国際交流員です。奈良県と海外の交流を深める架け橋となるべく、日々、国際交流業務に従事しています。

『奈の良』は、外国人の目線で見えた奈良県の魅力を県民の方々や外国から来られたお客様に紹介するため、私たちが奈良県で見つけた魅力や面白いことについて自ら取材し、記事にしたものです。本誌が奈良県に興味を持つきっかけや外国人が感じる奈良の魅力を発掘する手がかりとなれば嬉しく思います。



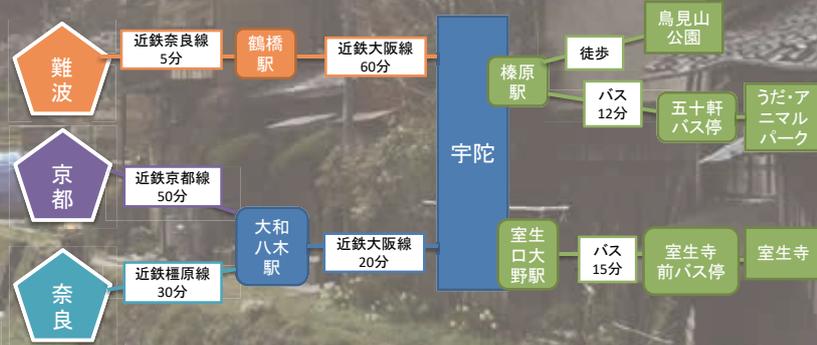
今回取材した場所



- P. 1-2 ハイキング With 奈の良 (鳥見山)
- P. 3-4 室生寺、大野寺
- P. 5 うだ・アニマルパーク
- P. 6 知られざる宇陀の魅力

アクセス

電車を利用する場合



車を利用する場合

- 大阪・名古屋から：
名阪国道針インターから国道369号線を経て20分
- 奈良から：
国道169号線から国道165号線を経て桜井から20分

編集後記

今回の取材にあたり御協力いただいた室生寺をはじめ、大野寺、宇陀市役所、うだ・アニマルパーク、メリメロ、宇陀市の方々にお礼申し上げます。

『奈の良』
発行元：奈良県知事公室国際課
発行：平成29年9月
本誌に関するご意見、ご質問等はこちらへご連絡ください。
〒630-8501 奈良市登大路町30 奈良県知事公室国際課
TEL：0742-27-8477
FAX：0742-22-1260

